

森有正著作目録

高橋 弘（編）

まえがき

森有正氏に関する著作目録は未だ公けにされていない。ただ一つ、名古屋の「森有正を正確に読む会」（代表岩瀬慶昭）が自分たちのために作ったものがあるのみである。しかし、その目録も森氏の留学、滞仏以降（昭和25年秋以降）のものに限られていること。また、講演、対談の類いが、一部例外を除いて扱われていないため、当目録の半分の量をカヴァーするにすぎない。その点が残念に思われる。

当目録は、森氏の日記を除く全てを対象としている。（日記がまとめられ、一書と成った場合は明らかにしているが、日記については、執筆日時、場所を改めて調査する必要がある。）、ただし、記録に残されていないもの、すなわち口述されただけの講演、対談、講義等は相当数あるが、一切割愛した。この目録の目的は、森氏の著作をより正確に読み、理解したいという必要に応えるべく著作成立の順序、講演、対談等の日時、背景等を確定しようとするものである。ただ、地方にいても、十分な調査のできないところもあったが、それなりの意味を持つことと思ひ、公表する次第である。

目録利用上の注意

- 成立日……脱稿日のある場合はそれを、ない場合は掲載日、発行日を成立日とみなした。しかし、一貫していないところもある。
- 〔推〕……文中、または他の資料により成立が推定された年月日。
- 「 」……… 標題は全て初出時のタイトルを用いた。後日、改題された標題は（ ）に入れて示したが、省いたものもある。詳細は全集参照。
- 『 』………一書となって出版されたもの。
- 〔再〕………再刊された図書
- 対談、座談、講演は、のち、まとめられて出版されているので、各々の掲載図書を明示しなかった。但し、雑誌、論集等に一度載ったものは、その初出を明らかにした。なお、初出の不明なもの、未発表のものは、そのまま空欄にしてある。

1938年 昭和13年

- 5月18日 「面影」 「共助」6月号
 11月27日 「象徴と実在と」 「共助」S14年1、2月号
 当年（推） 「パスカルの信仰—その生成と論理—」

1939年 昭和14年

- 4月 「フランク略伝」 「共助」4月号
 9月 「夏日印象」 「共助」9月号

- 9月 翻訳 パスカル『田舎の友への手紙』 白水社
 12月 「断想」 「共助」12月号
 12月10日 翻訳 デカルト『真理の探求』 創元社『デカルト選集』4巻
- 1940年 昭和15年**
- 3月 「聖ヨセフの像」 「共助」3月号
 3月 「パスカルにおける愛の一考察」 「思想」3月号
 4月28日 「デカルトの一映像」 『デカルト選集』第5巻, 月報4
 5月～8月 「パスカルにおける『愛』に就いて」 「共助」5, 6, 7, 8月号
 9月 「神の義」 「共助」9月号
 12月 「神の忍耐と人生」 「共助」12月号
- 1941年 昭和16年**
- 5月 「デカルトと自然研究」(後, 加筆し「自然研究」と改題) 「科学ペン」5月号
 8月 翻訳 パスカル『「パンセ」829其他』 「共助」8月号
 10月 「明証性と象徴性—デカルトとパスカル—」(後, 加筆し「明証と象徴—デカルトとパスカル—」と改題) 「文学界」10月号
 10月 「父の独子の栄光」 「共助」10月号
 10月 新刊紹介「松尾喜代司訳, ルター『ロマ書講解』」 「共助」10月号
 12月 翻訳 パスカル『「パンセ」抄』 「共助」12月号
- 1942年 昭和17年**
- 2月～8月 「パスカルにおける『愛』に就いて」(続) 「共助」2, 3, 4, 6, 7, 8月号
 7月 「イエスと学者達」 「共助」7月号
 9月15日 翻訳 ブトルウ『パスカル』 創元社, 哲学叢書
 9月20日 翻訳(共訳) ストロウスキー『仏蘭西モラリスト』 弘文堂世界文庫, *S29年岩波現代叢書『フランスの知慧』として再刊
- 1943年 昭和18年**
- 1月～4月 「パスカルにおけるイエス・キリストの問題」 「共助」1, 3, 4月号
 2月 「パスカルの内的発展における科学と宗教」 「科学思潮」2月号
 4月20日 『パスカルの方法』 弘文堂, *後, S24年9月, 要書房より『パスカル—方法の問題を中心として』改訂, 再刊, さらにS30年3月, 要選書80として『パスカル』と改題, 再刊
 7月 「神の休み」 「共助」7月号
 10月5日 「デカルトよりパスカルへ」 日新書院

- 11月5日 翻訳『カルヴァン説教』第一巻上 長崎書店
 当年(推) 「近代科学の恩人マラン・メルセヌ教父」
- 1944年 昭和19年**
 2月～5月 翻訳 パスカル「『パンセ』抄」 「共助」2, 5月号
 6月10日 翻訳 アラン「わが思索のあと」 筑摩書房
 9月 「パスカルにおける『愛』の構造(一)」 「共助」9月号, *後, 完成したものが
 S23年「表現」に発表される。
- 1945年 昭和20年**
 11月(推) 「パスカルにおける『死』の問題」 浅野順一編『死の理解』新教出版者,
 S21年5月10日出版
- 1946年 昭和21年**
 4月 「パスカルにおける『心情』の問題—近代 「思索」創刊号
 における神と自我の問題の一断面—」
 9月14日 「文化発展の道」 「思索」12月号(4号)
- 1947年 昭和22年**
 1月5日 翻訳 デカルト『真理の探求』(再) 創元社哲学叢書
 2月～5月 「パスカルにおける聖書解釈の問題」 「基督教文化」2, 3—4 合併号, 5月号
 3月 「デカルトにおける懐疑について」(「懐疑」) 「哲学」創刊号
 4月 「モラリストの精神とその限界」 「季刊大学」創刊号
 4月15日 「『方法叙説』を繞りて—デカルトに於ける 「哲学」6月号(2号)
 思考と実践」(「思考と実践—『方法叙
 説』をめぐる』)
 6月 「デカルトの人間像」(「人間像」) 「人間」6月号
 6月 「日本文化とキリスト教の使命」 「象徴」3号
 6月15日 「パスカルの宗教思想の根柢—愛の共同 「思想」12月20日(8号)
 体としての教会について」
 7月 「近代文学とキリスト教についての—考 「文芸」7月号
 察」
 7月3日 「パスカルにおける愛の秩序」 「文学季刊」10月号
 8月 「パスカルにおける教会の問題」 「思想」8月号
 9月10日 翻訳 パスカル『幾可学的精神』 創元社哲学叢書
 9月18日 「パスカルにおける人間存在の問題」 「仏蘭西文学研究」第1輯S23年4月号
 12月 「原罪の問題—ルター, パスカル, ドス 「芸術」12月刊第V号
 トエーフスキー—」
 12月 「ドストエーフスキーの罪惡観—『罪と 「文芸」12月号
 罰』の一考察」
- 1948年 昭和23年**
 1月15日 「デカルトの人間像」 白日書院

- | | | |
|--------|--|---|
| 2月 | 「自由と束縛—エラスムスとルター」 | 「福音と時代」2月号 |
| 2月1日 | 「自覚ということ」 | 「向陵時報」2/1 |
| 2月1日 | 「デカルトにおける実証的精神について」 | 「人文」(2号) |
| 4月 | 「立ち去る者」 | 『死人覚え書』ユリイカ* 後, S51年
10月, 青土社より増補版刊行 |
| 5月 | 「人間として生きる」 | 「基督教文化」5月号, 巻頭言 |
| 5月 | 「パスカルにおける『愛』の構造」 | 「表現」第2号 |
| 6月 | 「ヘレニズムとヘブライズム」 | 「PHOENIX」3号 |
| 6月 | 「ドストエーフスキーにおける『悪霊』
の一考察—」 | 「国土」6月号 |
| 6月 | 「スタヴローギンの精神像」 | 「文芸」6月号 |
| 6月 | 「コーリヤ・クラソートキン—『カラマ
—ゾフの兄弟』の中の一挿話」 | 「次元」6月号 |
| 6月15日 | 「信仰について」(後, 「再び信仰につい
て」と改題) | 『新文学講座』第四巻, 新潮社 |
| 7月 | 「デカルトと18世紀思想」 | 「世界文学」7月号 |
| 7月 | 「『バンセ』の本文構成の問題」 | 「方舟」創刊号 |
| 7月 | 翻訳 P. L. Corchoud 「パスカルの手記
再構成の問題」 | 「方舟」創刊号 |
| 7月~8月 | 「パスカル序言—愛の問題—」 | 「饗宴」7, 8月号(*本稿の起草はS19
年4月) |
| 8月1日 | 「勉強ということについて」 | 「向陵時報」8/1 |
| 9月 | 「ドストエーフスキーにおける『自由』の
一考察—『大審問官』の場合」 | 「世界文学」9月号 |
| 9月 | 翻訳 パスカル「人間の状態に就いての
説—断章集」 | 「方舟」第2号 |
| 9月 | 翻訳 ジャン・ラクロワ「ヨーロッパ精神」 | 「ヨーロッパ」9月号 |
| 9月 | 翻訳 ジャン・ラクロワ「判断の哲学者
アラン」 | 「ヨーロッパ」9月号 |
| 9月 | てい談「学生層にみる思想の動き」対・
羽仁吉一・羽仁もと子 | 「婦人の友」9月号 |
| 9, 11月 | 「デカルトの方法の形成—『方法叙説』第
一部を繞って—」 | 「哲学雑誌」700, 701号 |
| 10月28日 | 「吸収されぬ自我—実存主義哲学の真課
題—」 | 「東京大学新聞」10/28 |
| 11月10日 | 「近代精神とキリスト教」 | 河出書房, *S46年講談社「名著シリー
ズ」で再刊 |
| 11月 | 座談「近代哲学を通づるもの」対・池上
鎌三, 岩崎武雄, 山崎正一, 斯波義恵,
八田三喜, 香原一勢, 森 | 「倫理」11月号 |
| 12月 | 「ドストエーフスキー—神と人間との対決」
(「ドストエーフスキーに於る神と人」) | 「人間美学」12月号(8号) |

- 12月 「『露西亜の僧侶』を繞りて—ドストエーフスキーにおける愛—」 「文芸」12月号
- 12月 「ドストエーフスキーの『罪と罰』について」 「基督教文化」12月号(32号)
- 12月 「個我意識からの脱却—二十世紀思想の一課題—」 「個性」12月号
- 12月 「J. P. サルトル」(「サルトルにおける『自我』の問題」) 新樹社『現代フランス作家叢書』
- 当年(推) 「ルネサンス精神の完成としてのデカルトの思想」

1949年 昭和24年

- 1月30日 「自由について—殊にドストエーフスキーを中心として」 大塚久雄他編『世界観の探求』河出書房
- 1月 「デカルト思想の神秘主義的要素『イミタティオ・クリスティ』を繞って—西欧精神史における神秘主義の一断面」 「サンス」1月号
- 2月 対談「変革期における宗教の問題」対・西谷啓治 「展望」2月号
- 3月 「入党問題私見」 「人間」3月号
- 3月～6月 「ドストエーフスキーにおける善について—『白痴』を繞りて」 「新文学」3-4合併号, 5, 6月号
- 3月 翻訳 パスカル『田舎の友への手紙』 白水社仏蘭西古典文庫
- 3月10日 翻訳 アラン『わが思索のあと』(再) 思索社
- 4月 「サルトルにおける『自由』の一断面」 「個性」4月号
- 4月 書評「福田正俊・小塩力共著『時の徴—説教集—』」 「福音と時代」4月号
- 5月 「自由の尊重について」 「朝日評論」5月号
- 5月 「進歩について」 「評論」5月号
- 6月 書評「唐木順三『現代史への試み』」 「展望」6月号
- 7月13日 座談「学生ストの問題」尾高朝雄, 中野好夫, 山本信, 武井昭夫, 沖浦和光, 植木光教, 森 「展望」9月号
- 7月 「信仰と懷疑」 「ニュー・エイジ」7月号
- 7月 「昼の冥想・夜の冥想」(後「真夏の昼の夢」と改題) 「文学界」7月号
- 8月 「最近のフランスにおけるキリスト教とマルクス主義の問題の一断面」 「開拓者」8月号
- 8月 「サルトルの実存とその限界」 「展望」8月号
- 8月 「サルトルにおける肉体の問題」 「個性」8月号
- 8月 森有正・M. ロベール「往復書簡」(「カミュと古典主義の復活—マルセル・ロベール

- ル氏への手紙一)
- 9月 「学生運動是非」 「個性」9月号
- 9月 「意識の変革」 「人間」9月号
- 9月 座談「民主主義を語る」尾高朝雄, 矢内
原忠雄, 鈴木俊郎, 森 「独立」9月号
- 9月～10月 「『人間』の発見—『死の家の記録』を続
りて」 「婦人之友」9, 10月号
- 9月25日 「パスカル—方法の問題を中心にして」
(再) 要書房
- 11月 「フランスにおける『レジスタンス』の一
記録」 「学生評論」11月号(2号)
- 11月 「都会の意識と田舎の意識」 「個性」11月号
- 11月 「民族意識と国際性」 「女性線」11月号
- 12月 「自由について」 「基督教文化」12月号
- 12月 「サルトルにおける自我と意識」 「世紀」9号
- 1950年 昭和25年**
- 1月20日 「現代フランス思想の展望—サルトル・
アラゴン・カミュ—」 桜井書房
- 1月30日 「ドストエーフスキー覚書」 創元社, *S42年筑摩叢書として再刊
- 2月25日 「パスカル Blaise Pascal, 1623～1662」
(「ブレーズ・パスカル」) 筑摩書房編集部編『哲学講座』III
- 2月 「デカルト解釈の一つの方向—アンリ・
ルフェーブル氏の研究を続けて」 「理論」四巻2月号, (共著『現代フラ
ンス思想—新しい動き—』白水社に収
録)
- 2月 「内村鑑三」 「展望」50号, *S28年補筆され「アテ
ネ文庫211」弘文堂書店刊, S51年「講
談社学術文庫」として再刊
- 2月 「人間デカルト—1619年11月10日の夢を
続けて—」 「理想」2月号(201号)
- 3月21日 「思想の自由と人間の責任」 日本評論社, 新文化叢書4月15日, *S
30年, 河出新書 No. 113『自由と責任』
として再刊
- 3月 「日本の性格—アンケートに答えて—」 「展望」3月号
- 3月 「合理的ということ」 「人間」3月号
- 3月 座談「ドストエーフスキーにおける人間
の問題」椎名麟三, 吉村善夫, 佐木秋夫,
森 「基督教文化」3月号
- 3月20日 「マリタン Jacques Maritain, 1882～」
(「ジャック・マリタン」) 筑摩書房編集部編『哲学講座』IV
- 3月30日 「デカルトにおける知的啓示について—
『方法叙説』第一部末尾の解釈—」 「哲学雑誌」705号

- | | | |
|--------|---|------------------------------|
| 4月 | 「真の進歩」 | 「理論」4月号 |
| 4月 | 「最近の本から」 | 「ニュー・エイジ」4月号 |
| 5月18日 | 「暖かい心のともしび—山本安英さんの
文集を読む—」 | 「東京大学学生新聞」5月18日 |
| 5月 | 「近代思想と新しい人間像」 | 「世界評論」5月号 |
| 5月29日 | 「学園の自治と平和」 | 「展望」7月号 |
| 6月10日 | 『現代人と宗教』 | 要書房, 要選書 No. 2 |
| 6月10日 | 「宗教改革にみる近代精神」 | 「三田新聞」6/10 |
| 6月 | 「哲学と文学」 | 「理想」6月号 |
| 6月 | 「内村鑑三」 | 『近代日本の教養人』実業の日本社所収 |
| 6月 | 対談「フランス留学を前にして」対・小
塩力 | 「福音と世界」6月号 |
| 7月1日 | 「人間と人間を結ぶ絆—わだつみのこえ
に答える—」 | 『わだつみのこえに答える』東京大学共
同組合出版部 |
| 7月 | 書評「吉田秀和著『ロベルト・シュウマ
ン』」 | 「人間」7月号 |
| 8月 | 「絶望と希望と」 | 「群像」8月号 |
| 8月 | 「ヒューマニズム問答」 | 「改造」8月号 |
| 10月 | 「サルトル理解のために—一つの感想—」 | 「人間」10月号 |
| 11月30日 | 『デカルト研究』 | 東大協同組合出版部 |
| 11月下旬 | 「巴里に在って日本の明日を想う」阿部
知二, 朝吹登水子, 小島亮一, 笹本駿二,
高田博厚, 森 | 「文芸春秋」S26年1月号 |
| 11月25日 | 「ふらんす赤毛套—パリ通信—」 | 「女性改造」S26年3月号 |

1951年 昭和26年

- | | | |
|-------|--|-------------------|
| 1月9日 | 「フランスだより第一信」 | 「展望」3月号 |
| 1月19日 | 「歴史の旋律—パリ通信(1)—」 | 「人間」3月号 |
| 2月10日 | 「ジイドの死—フランスだより」 | 「展望」4月号 |
| 5月 | 「カミュ, グリーン, マルセルのアンドレ
・ジイド追悼—パリ通信(2)—」(「アンド
レ・ジイド追悼—パリ通信(2)—」) | 「人間」5月号 |
| 5月 | 「焼絵硝子—フランス通信—」 | 「婦人公論」5月号 |
| 7月 | 「新しい空間にたつて—フランスだより
第三信」 | 「展望」7月号 |
| 7月 | 翻訳 アラン『わが思索のあと』(再) | 新潮叢書 |
| 7月25日 | 翻訳 ストロウスキー『フランスの知慧』
(再) | 岩波現代叢書 |
| 8月 | 「辻音楽師—パリ点描—」 | 「世界」8月号 |
| 12月 | 「現代フランスの文化—エッフェル塔を
眺めながら—」 | 「世界」12月号, S27年3月号 |

1952年 昭和27年

- 3月13日 「映画に現われたジイド」
- 8月5日 「フランス文化のこの頃」 「毎日新聞」8/5
- 12月17日 「ルオーとトレドの僧院」(「黄昏のノート
ル・ダムーフランス文化についての二・
三の印象一」) 前半は生前未発表、後半は「芸術新潮」
S28年2月号

1953年 昭和28年

- 9月 「内村鑑三」(再) 弘文堂アテネ文庫

1954年 昭和29年

1955年 昭和30年

- 3月 「パスカル」(再) 要書房要選書 No. 80
- 9月 「パリー赤いノートル・ダム」(「赤いノー
トル・ダム」) 「学鑑」9月号
- 10月 「留学と会話」 「ふらんす」11月号
- 10月 対談「ヨーロッパ文明の基底をなすもの」 「福音と世界」10月号
対・小塩力
- 10月 対談「戦後のフランス」対・中島健蔵 「新日本文学」10月号
- 10月 インタビュー「フランス人と中立主義」 「世界」10月号(118号)
- 11月8日 「持続と蓄積」 「朝日新聞」11/8
- 11月 「文学について」共著『第二・学生への手
紙—人文科学を学ぶものへ』 同文館
- 12月 「加藤周一」 「文芸」12月号
- 12月 「古典は生きている—フランス文化の特
質—」 「文庫」12月号(岩波文庫の会)
- 12月 「文化の根というものについて—日本
人の眼に映ったフランス—」 「思想」12月号
- 12月 「サルトルのことなど—旅に托して—」 「世界」12月号
(「旅に托して—サルトルのことなど—」)
- 当年(推) 「戦後十年のフランス思想界」 「東京新聞」8/23, 24

1956年 昭和31年

- 1月 「パスカルと私」 「知性」1月号
- 1月 座談「東京—パリ」加藤周一、毛利真美、
森 「日本評論」1月号
- 1月 対談「日本および日本人について」対・
木下順二 「知性」1月号
- 当年 翻訳(共訳)M. フランス他『経済学と
経済政策』 日本経済新聞社

1957年 昭和32年

- 1月25日 「バビロンの流れのほとりにて」 講談社ミリオンブックス、*S43年筑摩書房から再刊
- 7月 翻訳（共訳）ポワヴァン『美はつくられる—フランスの美容術』 紀伊国屋書店

1958年 昭和33年

- 3月（推） 「日本における戦後新世代の思想の歩みと方向」（仏文）
- 8月10日 翻訳 リルケ『若き日の真実—ファイレンツェ日記』 角川書店、*S45年9月『ファイレンツェだより』と改題し、筑摩書房より再刊
- 10月 翻訳（共訳）ペリュシュ『ゴッホの生涯』 紀伊国屋書店

1959年 昭和34年

- 3月 「シャルトルと法隆寺—日本古美術展を海外に見て—」 「芸術新潮」3月号
- 5月 「流れのほとりにて—パリの書簡」 弘文堂7/25刊
- 5月31日 「日本の劇作家木下順二」（仏文） フランスの雑誌に所収

1960年 昭和35年

1961年 昭和36年

1962年 昭和37年

- 2月 「カルティエ・ラタンの周辺にて」 「世界」2月号
- 9月16日 「初秋のパリから—高田博厚氏に—」 「みすず」11月号
- 9月20日 「偶感」 「文芸」12月号
- 9月30日 「城門のかたわらにて—パリの手記」 河出書房新社 S 38年7/10刊
- 当年（推） 座談「芸術家の社会性の問題」 「美術批評」30号

1963年 昭和38年

- 8月 「ある夏の日の感想」 「青銅時代」10号、S40年7月刊

1964年 昭和39年

- 1月11日 「故国の情感」 「中日新聞」1/11

1965年 昭和40年

- 11月18日 「霧の朝」 「展望」S41年2月号
- 当年（推） 「パリ」（未定稿）
- 当年 「芥川龍之助の生涯と作品」（仏文） 芥川の仏訳の序文

1966年 昭和41年

- 8月15日 「ひかりとノートル・ダム」 「展望」11月号
- 8月19日 「ルオーをめぐって」(「ルオーについて—
8月のパリから高田博厚氏へ—)」 「みすず」S42年, 4, 5月号
- 10月5日 「パリの生活の一断面」 日仏学院にての講演に手を入れたもの
- 10月27日 講演「ヨーロッパより帰って」 ICU コンボケーション
- 10月~11月 「滞日雑感」
日本は変わったか—11年ぶりに帰国して
11年ぶり東京へ帰って
東京のことパリのこと 「朝日新聞」10/14
「東京新聞」10/31, 11/1
「読売新聞」11/11, 12
- 11月 「唐木さんの面影」 『唐木順三全集』第6巻月報
- 11月18日 「遙かなノートル・ダム」 「展望」S42年2月号
- 11月 対談「現代の省察」(第一部) 対・垣花秀武 『現代の省察』S44年11月
- 9月~11月 対談「彼を見、われを思う」 対・堀田善衛 「展望」12月号
対談「技術時代と思想—日本とヨーロッパ」 対・武田泰淳 「朝日ジャーナル」12/11号
対談「今こそ内面世界へ」 対・大江健三郎 「中央公論」S42年1月号
対談「日本語をめぐって」 対・木下順二 「文芸」S42年1月号
対談「パスカルの世界」 対・前田陽一 世界の名著『パスカル』月報
- 12月 「すべての人々の音楽の源泉」(「思索の源泉としての音楽」) 「音楽の友」12月号
- 12月 「東京の一隅」 「図書」12月号
- 冬 「ヨーロッパ通信」
パリー1, その相貌 「太陽」S42年1月号
パリー2, パリの冬とその街 「太陽」S42年3月号
パリー3, パリの古寺 「太陽」S42年4月号
パリ, フランス人のクリスマス 「太陽」S41年12月号

1967年 昭和42年

- 4月30日 「遙かなノートル・ダム」 筑摩書房
- 5月30日 「ドストエーフスキー覚書」(再) 筑摩書房
- 8月16日 「変貌」 「展望」9, 10月号
- 9月20日 「早春のパリから初秋の東京まで—辻邦夫著『夏の砦』をめぐって—」 「文芸」11月号
- 9月(推) 「ヴァレリーに触れて」 『ヴァレリー全集』8巻月報
- 9月(推) 対談「言語・思考・人間」 対・三宅徳嘉 「みすず」10月号
- 10月 対談「現代日本文明の特質」(「現代の省察」第2部) 対・垣花秀武 「世界」S43年1, 2月号
- 10月(推) 座談「経験・個人・社会」 丸山真男, 木 「展望」S43年1月号

- 下順二, 森
 10月 「日録」 「日本読売新聞」10/9, 16, 23, 30
 10月(推) 座談「人間と社会の根底にあるもの」中 「福音と世界」12月号
 沢宣夫, 荒木享, 森
 10月(推) 対談「日本人とヨーロッパの思想」対・ 「対話・思想の発生」番町書房11月刊
 伊藤勝彦
 10月(推) 「木下順二君の思い出」 「日本現代文学全集」第103巻月報
 12月25日 「共同討議・ドストエフスキーの哲学」 国際日本文化研究所 ※S44年創元社
 (共著) から再刊

1968年 昭和43年

- 3月25日 「言葉・事物・経験, 森有正対話集」 晶文社
 6月1日 「変貌するパリ」 「東京新聞」6/1
 6月10日 「バビロンの流れのほとりにて」(合本) 筑摩書房
 9月 「1968年の夏の反省—欧州をマネする時 代は過ぎた—」 「毎日新聞」9/26
 9月23日 「旅の空の下で」 「展望」11月号
 10月11日 「『ことば』についての反省」(『ことば について』) 「国語通信」10月号
 10月 「解放か解体か—注意深く良識的行動が 必要」 「朝日新聞」10/15
 「解放か解体か—日本のみが日本の運命 決定」 「朝日新聞」10/16
 当年 対談「人間の原理を求めて」対・小田実 (第1回目)

1969年 昭和44年

- 4月 書評「『ベルグソンとの対話』」(J. シュ ヴァリエ著・仲沢紀雄訳)
 8月30日 「旅の空の下で」 筑摩書房
 夏 対談「人間の原理を求めて」対・小田実 (第2, 第3回目)
 10月17日 講演「きくということ」 「きくとよむ・ことばの勉強2」未来社 S49年11/15
 10月17日 座談「ことばと『ことばの勉強会』につ いて」上原専禄, 内田義彦, 木下順二, 森
 10月26日 説教「アブラハムの信仰」 京都・北白川教会にて
 10月 対談「市民社会と知性について」対・住 谷一彦 「月刊キリスト」S45年1, 2月号
 10月 対談「宇宙への冒険とプロテスタンティ ズム」対・恒花秀武 「世界」S45年2月号

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 10月29日 | 対談「海と空間」対・恒花秀武 | 「春秋」S45年1月号, 2-3 合併号 |
| 11月 | 「一年ぶりに日本へ帰って一判断の中心を確立」 | 「東京新聞」11/18 |
| | 「一年ぶりに日本へ帰って一問題解決に情熱を」 | 「東京新聞」11/19 |
| | 「ことばの通じない社会」 | 「毎日新聞」11/18, 19 |
| 11月30日 | 『現代の省察』(対話集) 森, 恒花共著 | 春秋社 |
| 11月 | 『砂漠に向かって』 | 筑摩書房 S45年1月 |
| 11月 | 「パリーパリーの学校」 | 「ちくま」12月号 |
| 12月 | 「日本語についての感想」 | 「言語生活」12月号 |
| 12月 | 「雑木林の中の反省」 | 「展望」S45年1月号 |
| 当年 | 対談「現代と人間—危機のなかにある自覚に立って」対・木下順二 | 「展望」S45年3月号 |
|
 | | |
| 1970年 昭和45年 | | |
| 1月10日 | 「音楽と私」 | カワイ楽譜「ピアノ通信」№53 |
| 1月15日 | インタビュー「パリに暮して20年」 | 「新刊ニュース」1/15号 |
| 5月12日 | 「エキリーブルを与える人—ほんとうの教育者はと問われて」 | 「朝日新聞」5/12 |
| 7月 | 「文化と日々の営み」 | 「朝日新聞」7/23, 24 |
| 7月23日 | 「リールケのレゾナンス」 | リールケ『フライレンツェ便り』後記,
筑摩書房 9/20 刊 |
| 7月 | 「渡辺先生の授業」 | 筑摩書房『渡辺一夫著作集』11 卷月報 |
| 9月~10月 | 講演「アブラハムの生涯」 | 『森有正講演集・アブラハムの生涯』S
55年 |
| | 出 発 | 9/22 ICU 教会 |
| | 約束の地 | 9/29 ICU 教会 |
| | モリヤの山 | 10/6 ICU 教会 |
| | 死と墓 | 10/13 ICU 教会 |
| | 平和の主 | 10/20 ICU 教会 |
| 9月(推) | 「木々は光を浴びて」 | 「展望」11月号 |
| 夏 | 対談「言葉・経験・概念」対・内田義彦 | 「展望」9月号 |
| 夏 | 座談「日本の思想, 中国の思想, 西洋の思想」吉川幸次郎, 尾藤正英, 森 | 「図書」9月号 |
| 10月25日 | 講演「経験について」 | 青山学院大学にて |
| 10月 | インタビュー「生きることと考えること」聞き手・伊藤勝彦 | 講談社現代新書 11/6 刊 |
| 10月 | 「思い出, その他」 | 『日本思想体系』第25 卷, 月報 |
| 11月14日 | 「ド・ゴールの死」 | 「朝日新聞」11/14 |
| 11月 | 書評「『ふさがれた道』」 | 「朝日ジャーナル」11/1 号 |
| 11月 | 「経験と思想」の1, 序にかえて」 | 「思想」11月号 |
| 秋 | 対談「伝統と変革—日本文化批判」対・ | 「群像」11月号 |

- 小田切秀雄
- 秋 座談「現代とキリスト教」川田殖, 成瀬治, 森 「共助」12月号
- 12月 「『ことば』について想うこと」(上)未完 「文芸」S46年1月号
- 当年(推) 「一年ぶりに日本へ帰って」
- 1971年 昭和46年**
- 1月24日 『近代精神とキリスト教』(再) 講談社名著シリーズ
- 1月 「経験と思想, 日本人とその経験 (a)」 「思想」1月号
- 4月20日 「人間の原理を求めて」森・小田共著 筑摩書房
- 6月20日 『デカルトとパスカル』 筑摩書房
- 7月1日 「パリで中国を想う——市民の感想——」 「アジア・レビュー」7号
- 7月22日 「変化と交代の時代に」 「朝日新聞」7/22
- 8月24日 講演「古いものと新しいもの」 日本YWCA夏季集会, 東山荘にて
- 8月26日 講演「フランスの大学——伝統と改革」(「伝統と改革」) 「大学キリスト者」S47年45・46合併号
- 9月7日 「『夕鶴』の新しさ」 山本安英の会公演『夕鶴』のパンフレットに掲載
- 9月14日 座談「日本の現実と宗教」田中千禾夫, 遠藤周作, 森 「群像」11月号
- 9月 「わが思索わが風土」 「朝日新聞」9/20~25, 5回
- 10月10日 説教「土の器に」 東京・目白ヶ丘教会
- 10月18日 講演「古い皮袋」(「自立した個人となるために」) 宮城学院創立85周年記念, 同大学研究論集38—39
- 10月24日 「ドストエーフスキーと神」 「読売新聞」10/24
- 10月28日 講演「権威について」 ICU コンボケーション
- 10月 「経験と思想, 日本人とその経験 (b)」 「思想」10月号
- 11月18日 「1971年の夏を顧みて」 「東京新聞」11/18
- 11月 「暗く広い流れ」 「展望」12月号
- 11月 「新鮮な書」(内田義彦「社会認識の歩み」紹介文) 「図書」11月号
- 11月 「市民意識と国民意識の乖離——日本人のどこに欠陥があるか」 「週刊エコノミスト」11/30号
- 11月 「中村光夫氏と私」 『中村光夫全集』4巻月報
- 11月 「一つの後悔——林達夫氏について」 『林達夫全集』6巻月報
- 1972年 昭和47年**
- 1月 「経験と思想, 日本人とその経験 (c)」 「思想」1月号
- 1月 「大陸の影の下で」 「世界」2月号
- 2月1日 「川と歴史と人間——クルナ遺宝引き揚げに同行して——」 「東京新聞」2/1
- 2月 インタビュー「今の日本に欠けているも」 「流動」11月号

- の」聞き手・矢口圭振
- 5月18日 『LE ONS DE JAPONAIS 日本語教科書』 大修館
- 5月25日 『木々は光を浴びて』 筑摩書房
- 7月 講演「日本文化とキリスト教」(2回)(「日本人の生き方」) 宮城学院女子大学, 夏期公開講座, 7/1, 7/13
- 7月16日 説教「生命の水」(「生きるための信仰」) 同大学基督教文化研究所年報6~7号
仙台・東一番丁教会, 宮城学院女子大学基督教文化研究所年報8号
- 8月3日 講演「現代における信仰の意義」 共助会主催修養会
- 8月10日 「経験の重みに自覚を」(「8月15日の感想」) 「朝日新聞」8/10
- 8月 「本居宣長を繞って思うこと」 『本居宣長全集』14巻月報
- 9月11日 「バツハをめぐる」 「朝日新聞」9/11
- 9月12日 対談「西欧精神について」対・阿部良雄 「文芸」11月号
- 9月19日 講演「冒険と方向」 ICU チャペルアワー
- 9月24日 説教「パスカルについて—現代における信仰の問題」 柏木教会
- 9月 「紀行・バビロンの流れのほとりにて」 「図書」9月号
- 8月~9月 「パリ随想一心に浮かぶよしなしごと」 「東京新聞」8/24~11/14, 34回連載, S49年筑摩書房『パリ便り』として刊行
- 9月 「時代の流れを超えて—南原繁著作集に寄せて」 『南原繁著作集』内容見本
- 秋(推) 「『実存』と『社会』」 生前未発表の講義準備稿。この講義は「経験と思想」の第2部として, 秋学期にICUにて行われたもので, この講義の復元されたもの『講義録, 実存と社会』(岩瀬慶昭編)がICU図書館にある。
- 10月(推) 対談「フランス人の怒り方」対・松原秀一 「ふらんす」12月号
- 秋 鼎談「現代のアレオパゴス・森有正とキリスト教」古屋安雄, 加藤常昭, 森
- 10月8日 説教「神の知恵と知識との富」 中渋谷教会
- 10月14日 講演「日本人の心」 北星学園大学開学10周年記念
- 10月31日 講演「独り子の誕生」 ICU チャペルアワー
- 10月 「『夏の砦』について」 『辻邦夫作品集』内容見本
- 11月20日 「ICUオルガン・アカデミーに際して」 ICUオルガン・アカデミープログラム
- 11月24日 「現下の時点にあたって思うこと」 「世界」S48年1月号
- 秋(推) 座談「内なる先進性と後進性」木下順二, 堀田善衛, 森 「群像」12月号

1973年 昭和48年

- 6月20日 「『フランスから』の再刊に際して」 高田博厚著『フランスから』の序文
 7月5日 「現代のアレオパゴス・森有正とキリスト教」 日本基督教団出版局
 12月18日 講演「『ことば』について」 山本安英の会主催くことばの勉強会
 6周年記念、岩波ホール、「文芸展望」
 S49年秋季号
 当年（推） 「巴里私記—一つの思想の誕生」

1974年 昭和49年

- 1月30日 「パリだより」 筑摩書房
 3月18日 インタビュー「知識人とは何か」聞き手
 ・矢口圭振 「流動」7月号
 5月16日 「南原先生について思うこと」 丸山真男他編「回想の南原繁」
 9月10日 「対話 高田博厚・森有正」 高田博厚著「思索の遠近」収録
 9月20日 座談「表現について」尾崎宏次、藤久ミ
 ネ、森
 10月 「三十年という歳月」 「世界」11月号
 10月（推） 「遠ざかるノートル・ダム」 「展望」12月号
 秋（推） 「マロニエの黄ばむ頃」

1975年 昭和50年

- 3月20日 「古いものと新しいもの」(講演集) 日本基督教団出版局
 8月5日 「夏の日の感想」 「在仏日本人会報」9/10号
 9月13日 「《哲学講義》刊行にあたって」(「リセー
 の『哲学教科書』」) 「ちくま」12月号
 10月3日 対談「雑談」対・木下順二 木下順二著「歴史について」収録
 10月7日 講演「人格の基礎」(「人格の基礎をつく
 るもの」) ICU チャペルアワー
 10月9日 講演「人格の基礎」 ICU コンボケーション
 10月10日 講演「きたるべき世代を思って」 東京YWCA 創立70周年記念会
 10月12日 説教「光と闇」 ICU 教会、夕拝
 当年（推） 「一つの『経験』」
 当年 「日本思想入門」(仏文) これが翻訳され(荒木享訳)「思想」S
 54年11月号掲載

1976年 昭和51年

- 3月12日 対談「『夕鶴』の世界」対・内田義彦 山本安英の会「夕鶴」公演パンフレッ
 ト
 4月11日 対談「言葉を語る」(「『セーヌの辺で』の
 あとに」) 対・木下順二 「毎日新聞」6/14, 15

6月20日	『ルオー』（高田博厚と共著）	筑摩書房
6月21日	『土の器に』（講演集）	日本基督教団出版局
6月	「文化委員会設置に際して」	「在仏日本人会報」6/20号
7月10日	『思索と経験をめぐって』	講談社学術文庫
9月10日	『内村鑑三』（再）	講談社学術文庫
9月20日	『いかに生きるか』	講談社現代新書

死後刊行されたもの

1957年2月1日	『セーヌの辺で』	毎日新聞社
1977年5月25日	『光と闇』（講演集）	日本基督教団出版局
1977年7月20日	『経験と思想』	岩波書店
1977年	翻訳 デカルト『思索私記』	『デカルト著作集』4巻
1978年8月	『黄昏のノートル・ダム』	『展望』8月号
1980年11月10日	『アブラハムの生涯』（講演集）	日本基督教団出版局

成立年代未確定のもの

- 「パスカルにおける『愛』の諸相」
- 「荒野に水は湧きて」
- 「デカルトと合理主義」
- 「デカルトの思想における唯物論的要素」
- 「信仰の理解について」
- 「ヘブライズム対ヒューマニズム—ヨブ記をめぐって—」
- 「えたいの知れないもの—内面の崩壊にたえて」

後記

この著作目録は、「はしがき」でお断りしたように十分な点検、調査ができなかったため（全ての現物が手元にあった訳ではないということ）、不完全なものであると自覚していたが、もう一つの事情が校正段階で明白になった。それは、『森有正全集』の解題には、事実関係その他の点で大変誤りが多いということである。この目録もある程度全集を参考にしたので、一部分は訂正したものの、尚誤りがある心配がある。そういう意味でも、一層正確な、しかも森氏の活動を余さず網羅する書誌の出現を期したいと思う。幸い、森氏の書誌研究を続けている小黒庸光氏（武蔵野美術大学図書館勤務）が長い年月をかけて作製したほぼ一冊の本になる量の書誌が完成していると聞く。未だ出版の目途はたっていないが、その出版の成るのを期すこと切なるものがある。尚、校正の際訂正のため小黒氏の研究を一部参考にさせていただいた。記して感謝する次第である。

1984年1月25日